

A. 主な動き

1. 内政

- ・26日、ティモフティ大統領は、最高安全保障会議を招集し、国家安全保障戦略及び同作業部会の役割等に関し協議。
- ・27日、ヴォローニン共産党党首は、共産党のシンボルの使用を禁止した法律に関する審議をベニス委員会が開始した旨発言。
- ・29日、ヴォローニン共産党党首は、同党議員はバローゾ欧州委員会委員長との会談に出席しない旨発言。30日、社会党及び「復興」党等は、バローゾ欧州委員会委員長のモルドバ訪問に合わせ、モルドバの欧州統合及びNATOとの協力に反対する集会を開催。

2. 外交

▼バローゾ欧州委員会委員長のモルドバ訪問

- ・30日、フィト首相は、モルドバを訪問したバローゾ欧州委員会委員長と会談し、モルドバ・EU関係発展の展望等に関し協議。会談後、フィト首相は、バローゾ委員長との会談においてモルドバの欧州統合という目的達成は可能であるという結論に達したとし、2013年11月の「東方パートナーシップ」サミットまでに深化した包括的FTAを含むEUとの連合協定署名のための交渉及び査証免除に関する査証免除化に向けた行動計画の第二段階の終了が重要である旨及び必要な改革の継続を保証する旨発言。バローゾ委員長は、モルドバとの交渉進展状況を高く評価し、モルドバは東方パートナーシップ参加国のリーダーであり、連合協定交渉が2013年秋までに完了する可能性がある旨発言。また、同委員長は、EUは引き続きモルドバの欧州統合路線を支持するとし、モルドバへの支援額を増加させている旨発言。
- ・30日、ティモフティ大統領は、バローゾ委員長との会談において、同委員長の訪問によりモルドバ・EU関係は更に強化される旨発言。バローゾ委員長は、モルドバ国内の改革の達成状況を高く評価し、2013年秋の連合協定署名は現実的である旨発言。
- ・30日、ルプ議会議長は、バローゾ委員長と会談し、モルド

バの欧州統合問題に関し協議。

- ・30日、レアンカ副首相兼外務・欧州統合相とフィーレ拡大・近隣政策担当欧州委員は、モルドバの公共保健医療の近代化に関する支援(600万ユーロ)及び職業教育と訓練計画に関する支援(500万ユーロ)を内容とする合意文書に署名。

▼ルプ議会議長のドイツ訪問

- ・27日、ルプ議会議長は、ドイツを訪問し、ホイスゲン首相補佐官(外交・安全保障政策担当)との会談において、モルドバ・EU関係に関し意見交換。ホイスゲン補佐官は、独は今後もロシアとの協議において継続して沿ドニエストル問題を議題にする旨発言。
- ・28日、ルプ議長は、ラマート連邦議会議長と会談。ラマート議長は、モルドバは東方パートナーシップの枠組みにおいて最上位に配置することができるとし、EU及び独は査証免除分野を含むモルドバの欧州接近を支援する用意がある旨発言。ルプ議長は、モルドバには欧州統合以外の選択肢はない旨発言。

3. 沿ドニエストル

▼「5+2」者公式会合の開催

- ・28～30日、本年5回目の「5+2」者公式会合がダブリンにおいて開催され、参加者は信頼醸成措置を促進するキシナウとティラスポリの作業部会の活動の維持を支持し、自由な人及び貨物の移動の保証及び道路インフラの整備(橋の通行再開)等に関し協議を継続。
- ・30日、会合参加者は、アイルランドがOSCE議長国であった1年を総括し、今後の交渉の方向性の展望に関し意見交換。デシツァ駐OSCEウクライナ大使は、次回「5+2」者公式会合は2013年2月の後半にリヴィウにて開催される旨発表。

▼その他

- ・30日、キシナウ訪問中のバローゾ欧州委員会委員長は、沿ドニエストル問題はモルドバの欧州統合路線の障害ではない旨発言。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。
(了)